

新発田市 平成 28 年度 第 12 回定例記者会見

- 1 日 時 平成 29 年 3 月 6 日 (月) 午前 11 時～
- 2 場 所 ヨリネスしばた 501 会議室
- 3 内 容

- 企業主導型保育所「あけぼの保育園」開設
- 「子育てのプロが教えます！ ママが知りたい育児 パパでもできる？育児」
- イクネスしばた子育て講演会
- 『春^{はる}RUN^{ラン}漫^{まん}』しばたジョギング大会 in 加治川桜堤
- 「落谷虹児・中原淳一・松本かつち展」
- 平成 29 年度新発田市成人式
- 札の辻広場のイベント「しばた軽トラ市」
- 札の辻広場のイベント「新道・掛け蔵 出張屋台村 in 札の辻広場」
- 札の辻広場のイベント「高校・大学音楽祭」
- 札の辻広場のイベント「しばたフェス 2017 春 ～新発田×しばた～」
- 「香川元太郎 迷路づくり体験」
- 「気象予報士 平井信行 文化講演会」
- 新発田市芸術祭趣味の展示会「春蘭・雪割草展」
- 大友稲荷初午祭

あいさつ

- 前は、私のインフルエンザのために急きょ会見を中止させていただき、大変申し訳ありませんでした。
- 予防接種のおかげか、それほど強い症状ではなかったので、何とか公務を続けたいと思いましたが、医者に止められたため、覚悟を決めて 4 日間床に臥せていました。
- インフルエンザと言えば、昨年暮れに鳥インフルエンザで県内が大騒ぎになり、当市にも湖沼があるため慎重になりましたが、県内の「野鳥監視重点区域」がすべて解除されたことを受けて、当市でも五十公野公園の升湯や清湯への立入制限を解除しました。

- これまでグループに分かれて餌を取っていた白鳥が一つにまとまっていたのを見かけたので、シベリアへ帰る支度なのだろうと何となく分かる雰囲気でした。我々にとっては待ち遠しい、春がいよいよ来ると感じました。
- 議会の初日に新市歌を発表しました。たか たかし先生の郷愁なのかもしれませんが、「サクラ吹雪よ 花たちよ 大空高く 舞いあがれ」という、まさにこれからの新発田を象徴するような歌詞になっていると思います。
- その発表を議場の大型スクリーンで見させていただいて、これもまた「すごいな」と思いました。まさに議場が映画館になったような雰囲気でした。
- 様々な形で市民の皆様に議場を使っただき、この新庁舎が中心市街地にできた意味も込めて、大いに賑わい創出につなげていただければありがたいと思っています。

それでは、会見項目の説明とします。

最初に、企業主導型保育所「あけぼの保育園」について

- 当市では初となる企業主導型保育所「あけぼの保育園」が、4月に開設されることとなりました。
- 「あけぼの保育園」は、医療法人社団^{ゆうしんかい}有心会が有田病院の敷地内に開設するもので、0歳から2歳児10人を受け入れる予定です。
- 企業主導型保育所は、多様な就労形態に対応した保育サービスの拡大を支援する目的で、国が新たに創設した制度です。
- 基本的には従業員の子どもを対象としていますが、任意で地域の子どもを受け入れることができ、「あけぼの保育園」では10人のうち4人を「地域枠」としているとのことです。
- 少人数なので、保育士の目がよく行き届くことに加え、職場内にあるため、従業員にとっては子どもを遠くへ送り届ける必要がなく、近くで働くことができるメリットがあります。

- こうした取り組みが市内全域に広がり、働きやすい職場環境の整備、ひいては「子育てしやすいまち新発田」の一助となることを期待しています。
- 食品工業団地でも、「新発田企業コンシェルジュモデル事業」として、食品団地内での保育所について検討しているところです。

続いて、子育てに関する情報を2つ紹介します。

- 1つ目は、3月11日（土）に開催する、子育てにおける男女共同参画について考える講座です。
- 当日は、大阪教育大学准教授のこざきやすひろ小崎恭弘さんが基調講演を行った後、子育て中の父親2人が参加し、「イクメン」や「イクボス」、「ワークライフバランス」など、子育てを巡る様々なキーワードを話題に、パネルディスカッションを行います。
- そして、終了後には、子育て中の父親による「しばたパパサークル」が発足する予定です。
- 発起人である「ファーザリングジャパンにいがた」代表の大堀正幸さんは、仕事に追われ、家事や育児に関わりたくても関われない現代の父親の現状にかんが鑑み、これまでも勉強会などを開催してきたと聞いています。
- また、「しばたパパサークル」は、メンバー同士の交流や、子どもと一緒に楽しめるイベントなどを通じて、地域の父親のコミュニティを作ることを目的としており、地域の父親のサークルとしては、県内で第1号であると聞いています。
- このような活動が、男女が共に楽しく子育てができる社会を目指すうえで、一つのきっかけになるのではないかと考えています。
- 2つ目は、3月18日（土）に開催する、イクネスしばた「こどもセンター」主催の子育て講演会です。
- 新潟市の子育て応援施設「ドリームハウス」代表の新保まり子さんを迎え、「あなたらしい子育てを楽しんで」をテーマに講演していただきます。

○新保さんの豊富な経験に基づくお話は、子育てに悩んだり、疲れたりしている方の大きなヒントになると思います。

○今後も、様々なテーマで子育てに関する講座や講演会を開催し、施設整備や補助金などとは異なる側面から「子育て支援」に取り組んでいきたいと考えています。

次に、「春^{はる}RUN^{ラン}漫^{まん}」しばたジョギング大会について。

○昨年初開催し、大変好評だった加治川桜堤を走るジョギング大会を、今年も4月9日（日）に開催します。

○昨年の参加者からは、満開の桜の下を走るロケーションの良さもさることながら、ゴール後に地元の食材を使った豚汁やおにぎりを配布したこと、スタッフの丁寧な対応など、「おもてなし」の精神が素晴らしかったと、お褒めの言葉を頂きました。

○今年も、同様に豚汁とおにぎりの提供や、ゴール地点の飲食店コーナーで使えるチケットの配布を予定しています。飲食店コーナーは、参加者以外の方も利用できますので、お花見がてら足を運んでいただきたいと思います。

○また、インバウンド誘客の一環として、台湾の旅行社を通じて参加者を募集しています。ぜひ、大勢の外国の方に参加していただき、新発田を大いにPRしたいと思っています。

次に、落谷虹児記念館での特別な展示会について

○3月25日（土）から落谷虹児記念館で、昭和の少女雑誌で一世を風靡した挿絵画家・落谷虹児、^{なかほらじゅんいち}中原淳一、松本かつぢの作品が一堂に会する展示会を開催します。

○かつて、独自の美の世界で少女たちの憧れの的だった3人の作品約150点を展示するほか、3人が写った写真や虹児へ宛てた中原淳一の書簡など、貴重な資料も紹介します。

○また、会場では落谷虹児に加え、期間限定で中原淳一と松本かつちのグッズも販売します。

○今年、落谷虹児記念館は開館 30 周年を迎えます。ぜひ、この機会に大勢の方に足を運んでいただきたいと思います。

○なお、3 月 24 日（金）には、報道関係者向けの内覧会を開催します。展示会にご協力いただいた 3 人のご子息・ご息女から、作品を紹介していただく予定です。ぜひ、取材をお願いいたします。

このほかの情報としては、新成人の門出を祝う「成人式」があります。

また、札の辻広場でのイベントとして、お馴染みの「軽トラ市」や、繁華街の店舗が出店する「新道・掛け蔵 出張屋台村」、市内の高校・大学の音楽部が一堂に会する「高校・大学音楽祭」、お笑い集団^{ナ マ ラ}NAMARAがプロデュースする「しばたフェス 2017 春」があります。

さらに、児童を対象とした「迷路づくり体験」や、気象予報士・平井信行さんによる講演会のほか、毎年恒例の「春蘭・雪割草展」、大友稻荷の^{はつまつり}「初午祭」があります。

ぜひ、1 つでも多く記事に取り上げていただき、新発田市を盛り上げていただきたいと思います。

定例記者会見質疑応答概要

企業主導型保育所「あけぼの保育園」について

N H K 6人が従業員の子どもで、4人が「地域枠」ということか。

市長 その通り。余剰分4人を「地域枠」に振り分けたということである。入園者はこれから決定する。

N H K 定員10人のうち、まず従業員の子ども6人を受け入れ、余った4人の枠で地域の方の子どもを受け入れるということか。

市長 その通り。病院の立地が奥まったところにあるため、送迎などのサービスがないことを考えると、地域の方の送迎の負担はある。しかし、こういう保育所は増えていくのではないか。食品団地でも、団地内での保育を検討している。新発田公共職業安定所管内の新規求人倍率は1.4くらいで、その中でも新発田市は特に高い。同時に離職率も高い。こうした現状を踏まえて、職場環境を整えていかなければ、人手不足は解消されないのではないかと思う。長岡市の2か所・三条市の1か所に次いで、県内4番目である。

産 経 長岡市と三条市では、「地域枠」を設けているのか。

市長 設けていると思う。「地域枠」を設けるよう、国からの指導があるのではないか。

朝 日 募集はしていないのか。

市長 募集している。直接「あけぼの保育園」に、直接申し込んでいただきたい。

朝 日 いつまで募集しているのか。

市長 期限は聞いていない。入園の状況については、市でも把握することとしている。

北陸工業 企業主導型保育所は、今年度始まった制度で、国では来年度も継続されるそうであるが、食品工業団地では、この国の助成金を使って保育所を建てようと検討しているのか。

市長 どういう仕組みでやるかということも、まだ決まっていない。食品団地内でやろうという意見があり、一方で、専門の社会福祉法人に入ってもらってはどうかとの意見もあり、そこを研究している段階である。私が聞いている範囲では、大きな事業体ほど必要としており、小さな事業体はさほど切羽詰っていないという温度差があるようである。

中田町の油田跡からの原油・ガス噴出について

新潟日報 周辺の田んぼの作付けへの影響はあるのか。

市長 土地は周辺の住民のものであるが、掘削権は新潟の業者が持っているそうである。基本的には、業者が解決しなければならない問題であるが、このまま行政が黙っているわけにもいかないため、情報収集してどれだけ協力できるか検討したい。新発田川や周辺の用水に流れ込むと大変なことになる。今は小康状態だが、今後のことを考えると、放っておけないため、職員には研究するよう指示している。

新潟日報 再び噴出したときに、市としてどのような対応ができるかを検討・研究しているということか。

市長 地殻の移動による圧力で噴出すると聞いたが、設備の老朽化によって漏れているのではないかとの話もある。あまり長引いて農作業に影響が出ては困るので、近々に答えを出したい。

「気象予報士・平井信行講演会」について

産 経 新発田と直接関わりのない全国的な著名人を招くために、アプローチの方法があるのか。

市長 出演料や連絡先などを掲載した一覧表のようなものがあるようである。それによって、目的に沿った人材を探すようである。この講演会の平井氏と新発田につながりがあったとは聞いていない。